

アイライク第九 I like the symphony No.9

皆さんは『第九』というと何を連想するでしょうか？——多くの人はベートーヴェンの『交響曲第九番』を連想することでしょう、『歓喜の歌』のメロディで知られるあの曲です。

日本で最もポピュラーなシンフォニーの一つであり、年末にはあちこちで第九が演奏されている、これは世界で例のないことです。どうぞ聴くならしかと理解して聴きたいもの。

第九を歌おう？

Freude, Schoner Gotterfunken,
風呂出で 詩へ寝る 月照る 粉健

Tochter aus Elysium,
とホテル 会う末 理事 生む

Wir betreten feuertrunken,
ビルベ と 0点 夫追い得る 取るん健

Himmlische, dein Heiligtum.
貧無理死へ 台ん 入り人産む

Deine Zauber binden wieder,
台寝 津会うベル ビン出ん 微出る

Was der Mode Schwert geteilt;
バス出い 詣で 酒取れん 下駄いると

Bettler werde Furstenbruder,
ああ冷麺支援 ベル出ん 鯽うでる

Wo dein sanfter Flugel weilt.
暴犬ん 残ぶてる 風流げる 場いると

これは、あまりにも有名な第四楽章の合唱部分の、いわゆる音訳というやつです。
ドイツ語が読めない人はこうやって歌いましょう？

第九夜話

ベートーヴェンの死後、第九は『歓喜の歌』どころか、彼のいわくつきの『呪いの歌』と呼ばれた。

はみだし
すてーじ

腹減ったよ？ コレ、食べられるかなあ。

⇒わたしは食べたことまではありませんが、お腹を壊しても当編集部は責任を持ちませんよ。

(法・1 zing)

第九夜話

年末に演奏される「第九」は、なんと冬の季語になっている。

第九夜話

CDの音楽の収録時間74分は、第九の演奏時間が基準になっている。

日本の第九発祥・民族を超えた絆の歌

日本初の第九は意外にも戦時下で演奏されました。

第一次世界大戦、多くのドイツ人捕虜が日本に送られ、板野郡板東町（現在の鳴門市大麻町）の「板東捕虜収容所」にも約1,000人の捕虜たちが送られました。所長・松江豊寿（まつえとよひさ）は、「彼らドイツ兵も我々と同じように自分の国のために戦ったのだから」と言い、彼らに最大限の自由を与えました。所内では文化事業や商業活動が盛んに行われ、収容所というイメージとかけ離れ、開放的で現地の人々からも親しまれていたと言われています。

文化の交流も盛んで、その中で白眉が第九の演奏です。戦時中のこの第九は、ドイツ人捕虜と現地の村人たちとの交流が生んだ演奏と言えるでしょう。

年末の第九発祥・戦いの後の弔いの歌

第二次世界大戦中、東京音楽大学にて、学徒出陣の時、学生たちを送り出すためにこの合唱が歌われました。そして戦後「死んでいった彼らのためにもう一度第九を」、という声が高まり、第九は若者たちへの鎮魂歌として再び歌われるようになりました。これが年末の第九の端緒といわれています。

‘歓喜に至る’ 道しるべ

これはベートーヴェンが完成させた最後の交響曲で、ベートーヴェンのモットー『苦悩から歓喜へ』が最大限に表現されています。第一楽章では苦しみとしての人生、そしてそれに立ち向かう不屈の精神が。第二楽章では熱狂の中、パロディ化された人生が。第三楽章では夢でしかない儚い安らぎがそれぞれ表現されます。そして第四楽章では第三楽章までを否定して、あの有名な歓喜のメロディ（小学校などで『喜びの歌』として習った人も多いでしょう）が奏でられ、オーケストラと合唱、独唱によってシラーの『歓喜の寄せる』を歌い上げ、全人類の友愛と平和を祈り上げます。

年末の第九演奏予定

京都ミューズ

12/17 19:00~

京都コンサートホールにて

<http://www.h2.dion.ne.jp/~muse/>

京都市交響楽団

12/26 14:30~

京都コンサートホールにて

<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/symphony/>

第九はこの時期日本のあちこちで演奏されます。日本で育った第九文化、高まりゆく緊張の中、歓喜の歌を味わってみませんか。

はみだし
すてーじ

じーてすしだはみ。
⇒見出し恥捨て。

(工・? たけちゃん)